

令和3年度第4回空家等対策審議会議事録（概要）

開催日時 令和4年2月4日（金） 10:05～11:19

開催場所 Cisco Webex Meetings を利用したオンライン開催

（事務局：西宮市役所本庁舎 4階 A442 会議室）

出席者 委員 岡会長 浅田副会長、梓川委員、斎藤委員、才本委員

臨時委員 布谷委員、樋口委員、南委員

当局 宮島環境局長、岩田環境総括室長

樋口都市総括室長、伊東建築・開発指導部長

日下すまいづくり推進課長、山岡建築指導課長

鮫島環境衛生課長、上坂環境衛生課係長

高坂環境衛生課主査

委託業者 株式会社サンワコン 姫路出張所 番場氏、内田氏

（西宮市空家等対策計画改定支援業務の委託業者）

欠席 0名

傍聴者 0名

議題 ① 「（仮称）第二次西宮市空家等対策計画（素案）」に対するパブリックコメントの結果及び市の考え方について

②第二次西宮市空家等対策計画（素案）の検討について

1 開会

2 環境局長の挨拶

3 出席委員数の報告

4 議題

（1） 「（仮称）第二次西宮市空家等対策計画（素案）」に対するパブリックコメントの結果及び市の考え方について

（2） 第二次西宮市空家等対策計画（素案）の検討について

事務局 ： 資料説明に基づき説明

【委員からの意見等】

<素案の修正内容についての意見>

・対策の部分で、意思を表明する上では、「努めます。」という表現はシンプルだが、やろうとする責任感が伝わる表現なので、「努めます。」を残した表現を考えてもらいたい。

<今回の計画策定作業の進め方についての意見>

・計画の素案の本編はページ数が多く、見るのが大変なので、広く知ってもらおうのであれば計画書を薄くする努力も必要だと思う。

<今後の空家対策を進める上での参考としての意見>

- ・他市の空家解体費補助制度では、市が利用があると想定していた地域以外での制度の利用が多く、市のねらいどおりに進んでいないという事例があるので、西宮市の街の成り立ちも踏まえて制度を研究してもらいたい。
- ・空家解体費補助制度については、それほど補助が必要ではないものまで対象となる懸念がある。自治体によっては、補助なしでは解決できない相当厳しい状態のものに絞って対象としている場合がある。
- ・マンションが老朽化し、建て替えていかなければならないことは空家問題に少し関連すると思うので、住宅マスタープランなどで総合的に早めの対策をした方が良く思う。
- ・賃貸マンションのオーナーが高齢になるなどにより、空家になった後に、うまく管理されていないものも、今後出てくると思う。西宮市の状況を把握して、検討を進めてもらいたい。
- ・西宮市は職住近接で住むには非常に良い。企業誘致できれば住む人や空家の活用がもっと増えると思うので、将来的に西宮市の空家対策と企業誘致の横の連携をしていくのが良いと感じる。
- ・新型コロナの影響でサテライトオフィスの需要が高まっている。西宮市は、職住近接でサテライトオフィスの誘致も良いのではないかとと思う。
- ・西宮市の場合、南部と北部で大きく状況が違い、今後、空家対策も違ってくると感じている。一番大事なのは、地域でどういう対策をしていくかで、地域住民の合意を取っていく必要がある。小学校区単位ぐらゐの地域での対策の方向性を市と審議会で示していかないといけないと考えている。
- ・空家になって10年くらい経てば、順次変わってきている気がする。私の住む地域は元々生活利便性が高いので、去年から今年にかけては空家を取り壊され、新たに家が建ったものが多いと感じている。古い空家はかなり多いと感じるが、自治会への空家に関する苦情は過去にはあったが、最近はほとんどない。また、空家をリフォームするという話はなかなか出てこない。
- ・空家を持っている人にもそれぞれ空家に対する思いや生活がある中、法的に色々言われてもどうにもならない場合に、そういった事情を汲み取り、分かり合って納得してもらいながら対策を進めていくという観点が必要だと思う。
- ・空家の問題は、市民の側においても自分自身の問題であるという意識を持つようにしていくことが大切である。
- ・空家の状況は市によって異なるので、地域との連携や地域における取り組みなどを意識してもらって、自らの環境を守っていくことを進めてもらいたい。
- ・地域の中で解決しきれない大きな部分については、市内部で他部署との連携を図りながら、空家対策を進めていってもらいたい。

<その他>

- ・計画素案の修正については、委員全員の了承を得られたため、事務局と会長の協議にて行う。
- ・修正後の計画素案を計画最終案として3月の市議会で報告後、新計画として公表予定。

5 閉会

(以上)